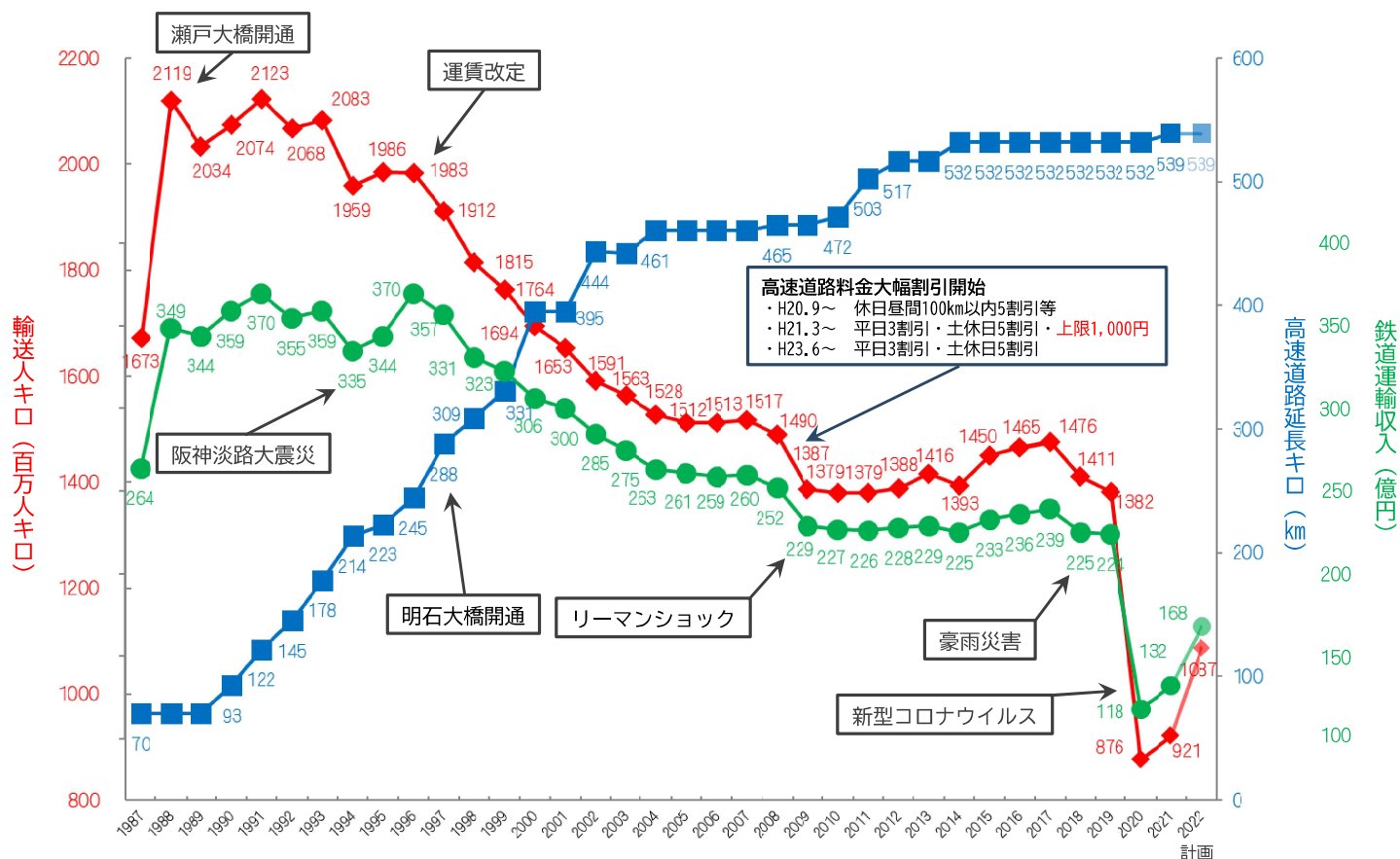


JR四国の現状について

- 区間別平均通過人員・線別収支と営業係数
- 運賃改定の概要
- チケットレスアプリの概要
- 5カ年推進計画(徳島県内の主な取組事例)

2022(令和4)年9月2日
四国旅客鉄道株式会社

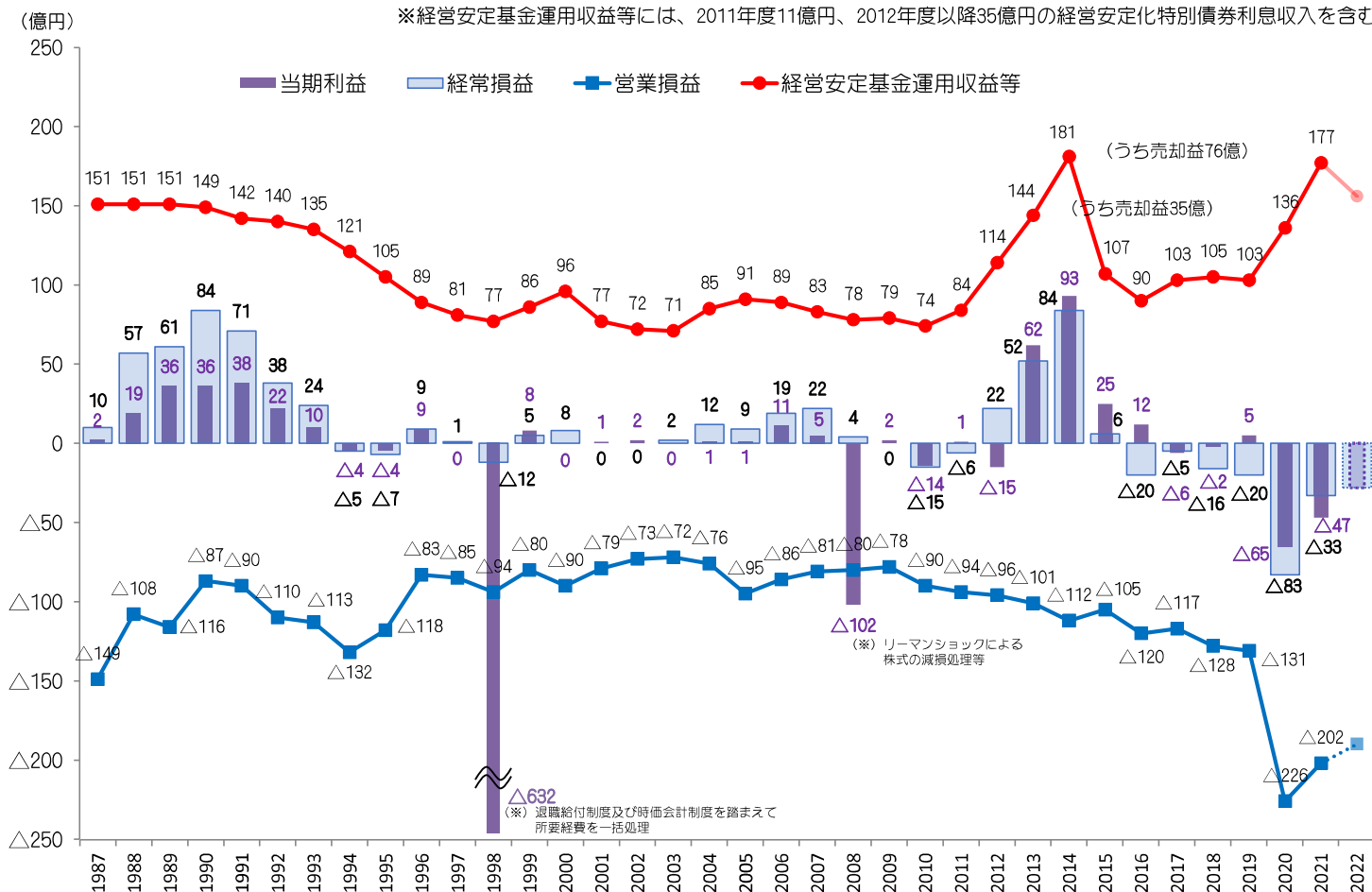
鉄道輸送人キロ、運輸収入及び高速道路延伸の推移



※高速道路延長キロは年度末の数値、JR四国調べ

経常損益等の推移(単体)

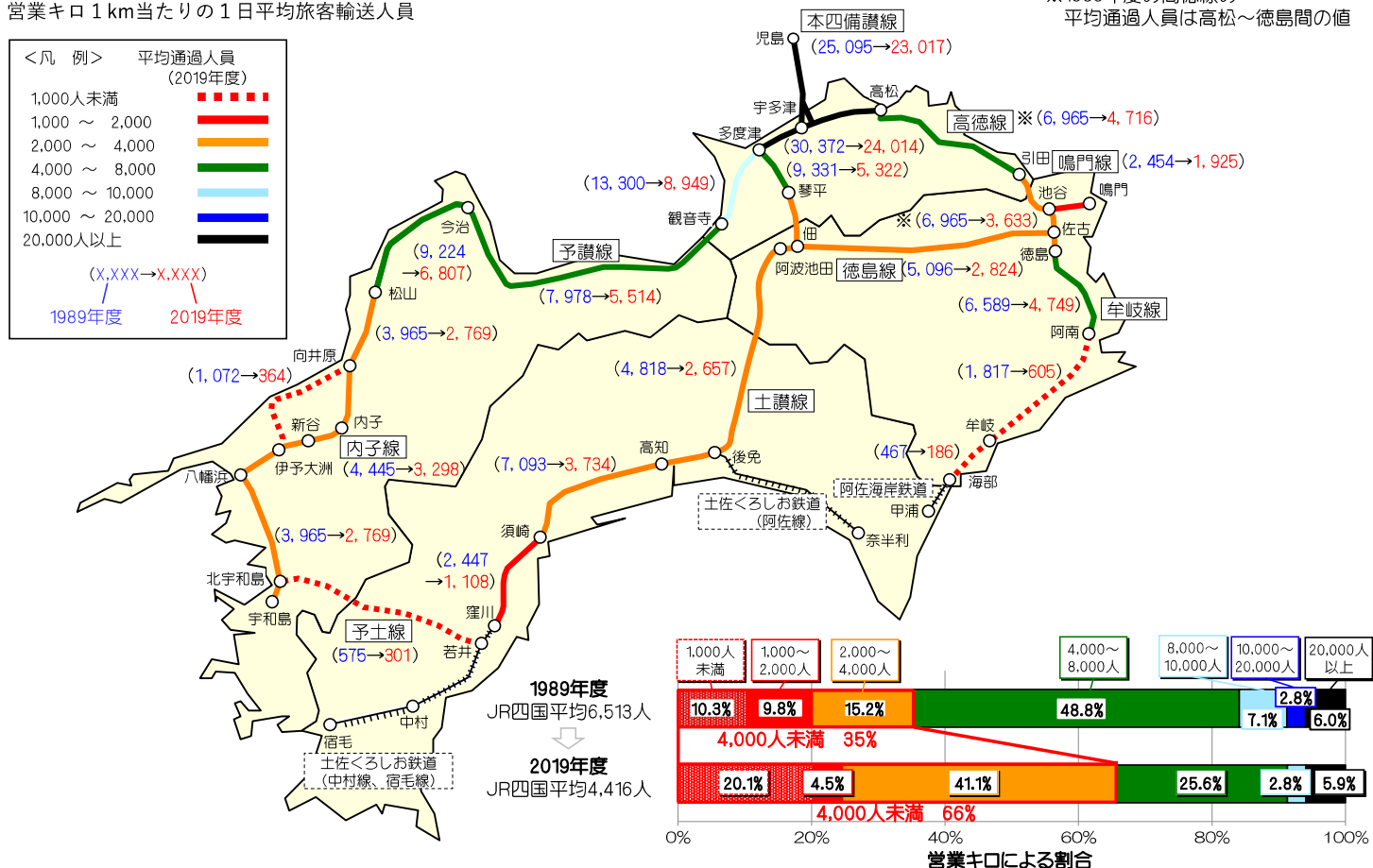
※経営安定基金運用収益等には、2011年度11億円、2012年度以降35億円の経営安定化特別債券利息収入を含む



JR四国 区間別平均通過人員(2019年度)

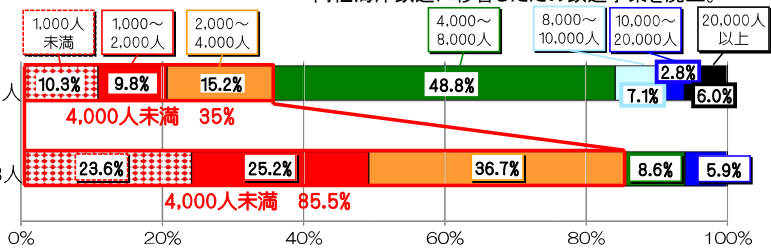
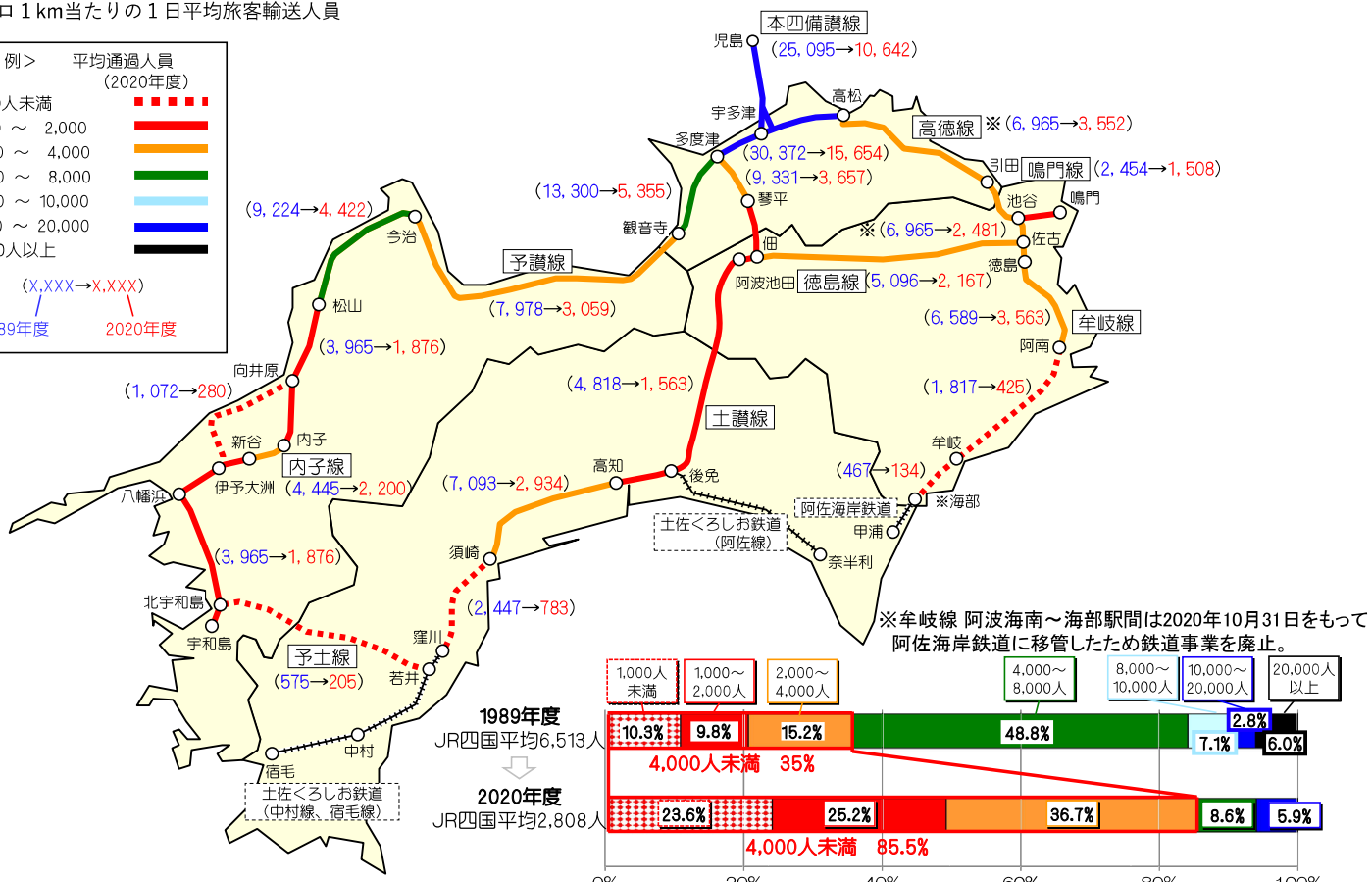
[平均通過人員]
営業キロ 1 km当たりの1日平均旅客輸送人員

※1989年度の高徳線の平均通過人員は高松～徳島間の値

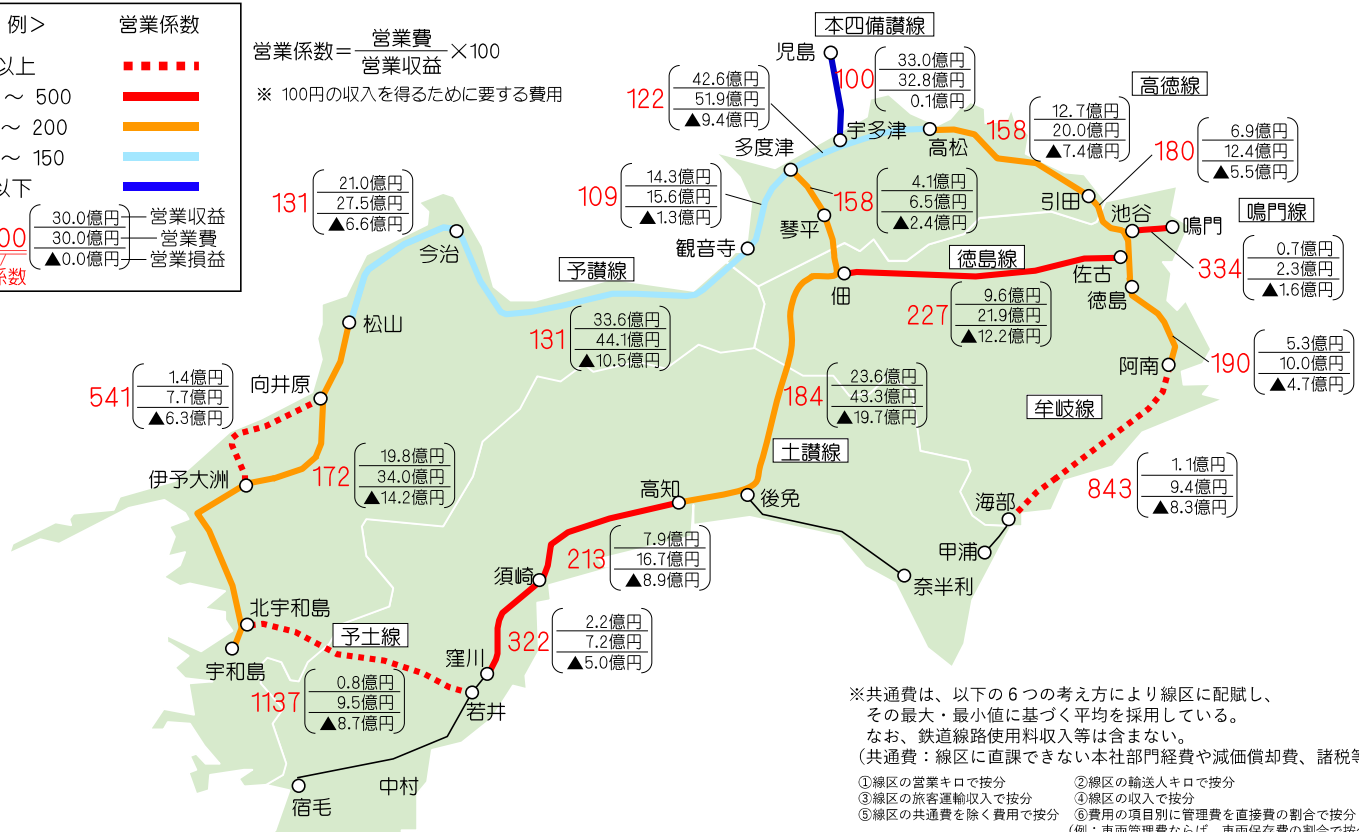
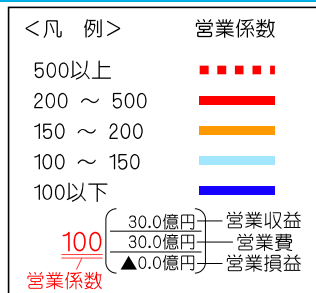


JR四国 区間別平均通過人員(2020年度) 【※コロナ影響あり】

[平均通過人員]
営業キロ1km当たりの1日平均旅客輸送人員



線区別収支と営業係数 (2019年度)



※共通費は、以下の6つの考え方により線区に配賦し、その最大・最小値に基づく平均を採用している。
なお、鉄道線路使用料収入等は含まない。
(共通費：線区に直課できない本社部門経費や減価償却費、諸税等)

- ①線区の営業キロで按分
- ②線区の輸送キロで按分
- ③線区の旅客運輸収入で按分
- ④線区の収入で按分
- ⑤線区の共通費を除く費用で按分
- ⑥費用の項目別に管理費を直接費の割合で按分

(例：車両管理費ならば、車両保存費の割合で按分など)

	営業収益 (百万円)	営業費 (百万円)	営業損益 (百万円)	営業係数
JR四国全線	24,051	37,199	▲13,148	155

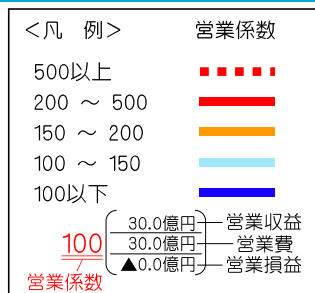
※共通費の線区配賦に平均値を採用しているため、線区別収支の合計値とJR四国全線の値は一致しない。
※端数は四捨五入処理。
※今後、共通費の線区配賦方法を見直すことがある。

線区別収支と営業係数(2019年度)

線名	区間	営業キロ (km)	平均通過人員 (人/日)	収支(百万円)			営業係数(円)	【参考】 共通費除く 営業係数(円)
				営業収益	営業費	営業損益		
本四備讃線	児島 ~ 宇多津	18.1	23,017	3,299	3,284	15	100	63
予讃線	高松 ~ 多度津	32.7	24,014	4,257	5,194	▲937	122	80
	多度津 ~ 観音寺	23.8	8,949	1,426	1,557	▲131	109	64
	観音寺 ~ 今治	88.4	5,514	3,362	4,410	▲1,049	131	78
	今治 ~ 松山	49.5	6,807	2,096	2,755	▲659	131	80
	松山 ~ 宇和島	96.9	2,798	1,983	3,403	▲1,420	172	104
	向井原 ~ 伊予大洲	41.0	364	142	769	▲627	541	283
土讃線	多度津 ~ 琴平	11.3	5,322	412	649	▲238	158	102
	琴平 ~ 高知	115.3	2,657	2,360	4,334	▲1,974	184	117
	高知 ~ 須崎	42.1	3,734	787	1,673	▲886	213	137
	須崎 ~ 窪川	30.0	1,108	224	722	▲497	322	180
高德線	高松 ~ 引田	45.1	4,716	1,265	2,005	▲739	158	96
	引田 ~ 徳島	29.4	3,633	687	1,235	▲549	180	114
牟岐線	徳島 ~ 阿南	24.5	4,749	526	1,000	▲474	190	118
	阿南 ~ 海部	54.8	516	112	940	▲828	843	396
徳島線	佐古 ~ 佃	67.5	2,824	961	2,185	▲1,224	227	137
鳴門線	池谷 ~ 鳴門	8.5	1,925	68	223	▲160	334	198
予土線	北宇和島 ~ 若井	76.3	301	84	953	▲869	1,137	334
JR四国全線		855.2	4,416	24,051	37,199	▲13,148	155	—

※予讃線松山～宇和島間は内子線含む、予讃線向井原～伊予大洲間は海線。
 ※営業係数=営業費÷営業収益×100(100円の収入を得るために要する費用)
 ※共通費：線区に直課できない本社部門経費や減価償却費、諸税等。
 本社部門経費の例) 列車運行計画及び管理、安全・サービスの維持・向上、社員教育及び乗務員養成、総務・財務部門に係る費用等。
 ※共通費は、以下の6つの考え方により線区に配賦し、その最大・最小値に基づく平均を採用している(鉄道線路使用料収入等は含まない)。
 ①線区の営業キロで按分 ②線区の輸送人キロで按分 ③線区の旅客運輸収入で按分
 ④線区の収入で按分 ⑤線区の共通費を除く費用で按分 ⑥費用の項目別に管理費を直接費の割合で按分(例：車両管理費ならば、車両保存費の割合で按分など)
 ※共通費の線区配賦に平均値を採用しているため、線区別収支の合計値とJR四国全線の値は一致しない。
 ※今後、共通費の線区配賦方法を見直すことがある。
 ※共通費除く営業係数：列車運行にかかる経費(乗務員にかかる経費や車両の動力費、駅業務にかかる経費、車両や地上設備の維持・修繕にかかる経費)に係る営業係数。
 ※端数は四捨五入処理。

JR四国の線区別収支と営業係数(2020年度)



$$\text{営業係数} = \frac{\text{営業費}}{\text{営業収益}} \times 100$$

※ 100円の収入を得るために要する費用



※共通費は、以下の6つの考え方により線区に配賦し、その最大・最小値に基づく平均を採用している。
 なお、鉄道線路使用料収入等は含まない。
 (共通費：線区に直課できない本社部門経費や減価償却費、諸税等)
 ①線区の営業キロで按分 ②線区の輸送人キロで按分
 ③線区の旅客運輸収入で按分 ④線区の収入で按分
 ⑤線区の共通費を除く費用で按分 ⑥費用の項目別に管理費を直接費の割合で按分
 (例：車両管理費ならば、車両保存費の割合で按分など)

	営業収益 (百万円)	営業費 (百万円)	営業損益 (百万円)	営業係数
JR四国全線	13,438	36,013	▲22,575	268

※共通費の線区配賦に平均値を採用しているため、線区別収支の合計値とJR四国全線の値は一致しない。
 ※端数は四捨五入処理。
 ※今後、共通費の線区配賦方法を見直すことがある。

JR四国の線別収支と営業係数(2020年度)

線名	区間	営業キロ(km)	平均通過人員(人/日)	収支(百万円)			営業係数(円)	【参考】 共通費除く 営業係数(円)
				営業収益	営業費	営業損益		
本四備讃線	児島 ~ 宇多津	18.1	10,642	1,441	2,978	▲ 1,537	207	134
予讃線	高松 ~ 多度津	32.7	15,654	2,509	4,814	▲ 2,305	192	115
	多度津 ~ 観音寺	23.8	5,355	676	1,609	▲ 933	238	145
	観音寺 ~ 今治	88.4	3,059	1,612	4,031	▲ 2,419	250	141
	今治 ~ 松山	49.5	4,422	1,178	2,744	▲ 1,566	233	131
	松山 ~ 宇和島	96.9	1,894	1,354	3,437	▲ 2,083	254	147
	向井原 ~ 伊予大洲	41.0	280	93	698	▲ 605	754	333
土讃線	多度津 ~ 琴平	11.3	3,657	240	665	▲ 425	277	171
	琴平 ~ 高知	115.3	1,563	1,257	4,182	▲ 2,925	333	205
	高知 ~ 須崎	42.1	2,934	573	1,760	▲ 1,186	307	185
	須崎 ~ 窪川	30.0	783	132	685	▲ 553	519	259
高德線	高松 ~ 引田	45.1	3,552	796	1,975	▲ 1,179	248	134
	引田 ~ 徳島	29.4	2,481	398	1,179	▲ 781	296	170
牟岐線	徳島 ~ 阿南	24.5	3,563	344	1,057	▲ 713	307	177
	阿南 ~ 海部	54.8	363	79	932	▲ 853	1,185	510
徳島線	佐古 ~ 佃	67.5	2,167	636	2,150	▲ 1,514	338	184
鳴門線	池谷 ~ 鳴門	8.5	1,508	46	223	▲ 177	483	261
予土線	北宇和島 ~ 若井	76.3	205	73	1,027	▲ 954	1,401	430
JR四国全線		855.2	2,806	13,438	36,013	▲ 22,575	268	—

※予讃線松山～宇和島間は内子線含む、予讃線向井原～伊予大洲間は海線。

※営業係数=営業費÷営業収益×100(100円の収入を得るために要する費用)

※共通費：線区に直課できない本社部門経費や減価償却費、諸税等。

本社部門経費(例) 列車運行計画及び管理、安全・サービスの維持・向上、社員教育及び乗務員養成、総務・財務部門に係わる費用等。

※共通費は、以下の6つの考え方により線区に配賦し、その最大・最小値に基づく平均を採用している(鉄道線路使用料収入等は含まない)。

①線区の営業キロで按分 ②線区の輸送人キロで按分 ③線区の旅客運輸収入で按分

④線区の収入で按分 ⑤線区の共通費を除く費用で按分 ⑥費用の項目別に管理費を直接費の割合で按分(例：車両管理費ならば、車両保存費の割合で按分など)

※共通費の線区配賦に平均値を採用しているため、線別収支の合計値とJR四国全線の値は一致しない。

※今後、共通費の線区配賦方法を見直すことがある。

※共通費除く営業係数：列車運行にかかる経費(乗務員にかかる経費や車両の動力費、駅業務にかかる経費、車両や地上設備の維持・修繕にかかる経費)に係わる営業係数。

※端数は四捨五入処理。

運賃改定

背景・目的

- 2021年度決算は、営業損益で▲202億円の赤字、経営安定基金運用を充ててもなお、▲33億円の経常赤字と極めて厳しい経営状況です。
- 今後についても、人口減少等による鉄道運輸収入の漸減に加え、オンライン会議やテレワーク等の新しい生活様式の定着による不可逆的な減少を見込まざるを得ません。
- 一方、列車運行の安全・安定輸送の確保のために必要な安全対策や運転保安に直結する設備の老朽取替え等の安全投資や修繕費の確保は必須である状況です。
- グループ一体となり増収努力及び経費節減等に取り組むとともに、国からの支援措置を活用した利便性向上施策及び省力化・省人化施策や、地域の皆様と一体となった利用促進・利便性向上に引き続き取り組むほか、MaaSの考え方のもと公共交通ネットワークの四国モデルを追求していきます。
- 今後とも地域の基幹的公共輸送機関としての役割を果たしていくため、徹底した経営努力を前提として、国、地域からの支援とともに、お客様にも一部のご負担をお願いしたく運賃改定を計画いたしました。

運賃改定の概要

- 運賃改定予定日：2023年春
- 増収規模：年間20億円程度を計画
- 改定率：運賃・料金全体で約13%
※初乗運賃(現行)170円 → 改定190円

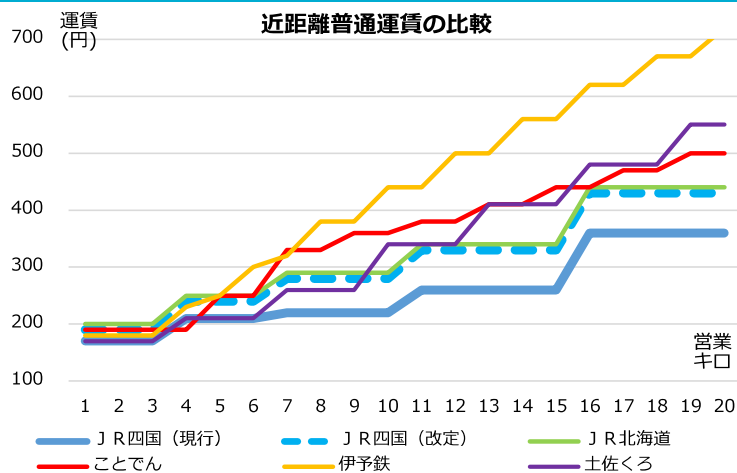
1996年以来、27年ぶりの改定

<改定率の内訳>

	改定率(%)
定期外	12.51
定期	25.55
通勤	28.14
通学	22.43
料金	5.13
合計	12.82

※運賃改定にあわせて料金も改定します

運賃改定(他鉄道事業者との比較等)



近距離普通運賃

7～10キロ(片道)
220円→280円(60円値上げ) **改定率27.3%**

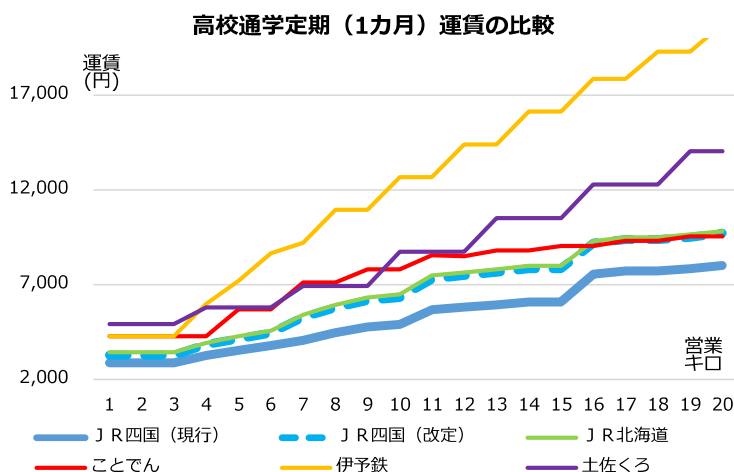
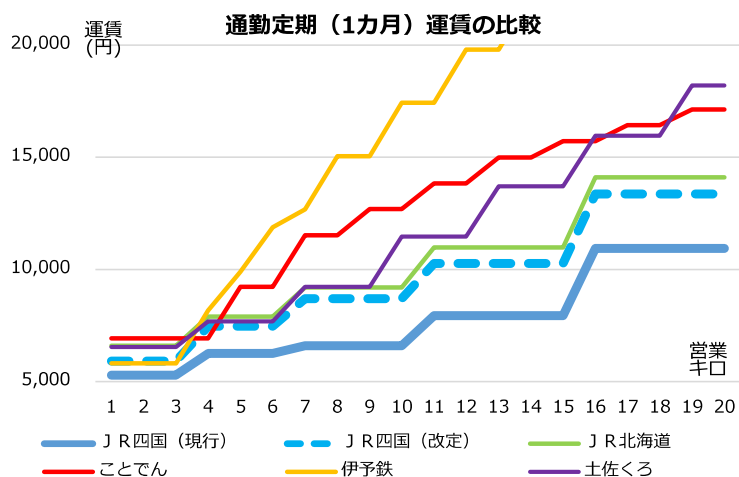
通勤定期(1ヵ月)運賃

7～10キロ
6,600円→8,700円(2,100円値上げ) **改定率31.8%**
※1日あたり : 220円→290円(約70円値上げ)
※1日の片道あたり : 110円→145円(約35円値上げ)

通学(高校)定期(1ヵ月)運賃

10キロ
4,890円→6,320円(1,430円値上げ) **改定率29.2%**
※1日あたり : 163円→211円(約48円値上げ)
※1日の片道あたり : 82円→105円(約24円値上げ)

※1ヵ月は30日で試算



運賃改定(主な利用者サービス向上策)

(1) スマートフォンアプリによる 新チケットシステムの開発・導入

- ・スマートフォンで事前にきっぷを購入できるシステムの開発・導入

<ご利用イメージ>



(3) デジタルサイネージの導入拡大

- ・より多くのお客様へのわかりやすい情報提供に向け、列車の運行情報を音声に加え映像でも提供できるデジタルサイネージの整備を進める



サイネージの設置(例)

(5) その他設備改良

- ・駅信号設備の老朽更新に合わせ、一部の駅で駅舎側ホームへの列車発着本数を増加できるように改良を行う
→ご線橋を渡らずに列車をご利用できる回数が増加
- ・駅・車両のトイレ洋式化を進める

(2) 新型ローカル気動車の開発・導入

- ・普通列車として使用している気動車の老朽取替用として新型ローカル気動車を開発・導入



更新対象車両(例)



新製・更新

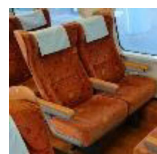


新型ローカル気動車(イメージ)
※写真は当社1500型

(4) 特急電車リニューアル

- ・客室設備の改良(バリアフリーへの対応、座席の更新、コンセント増設など)を行う

<リニューアルイメージ>



取替



座席
コンセント

当社の最新車両と同様の座席に取替等



リニューアル対象電車(8000系)

運賃改定(これまでの経営合理化の状況及び今後の取り組み)

省力化・省人化による生産性向上

時代とともに進化する技術を取り込み、省力化・省人化を推進することでオペレーションを変革し、生産性向上やサービス水準の維持・向上を目指します。

①乗車券類等販売体制の見直し

販売体制の見直しにより、省力化・省人化とサービス水準の維持・向上の両立を目指す。

【施策の事例】新チケットシステム導入・Web販売強化

- ・スマホアプリを活用した新チケットシステム導入、Web販売強化等にあわせ、駅の出改札業務の効率化を目指す



②列車運行の効率化

輸送需要に応じて列車体系を最適化するとともに、安全の確保を前提に、人が担ってきた作業の自動化やシステム化を推進する。

【施策の事例】ワンマン運転拡大

- ・民営化以降、普通列車の約半数をワンマン運転化
- ・2両編成以上の列車のワンマン運転化を拡大する



I TV (監視カメラ)

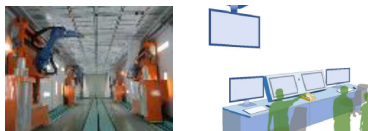


ワンマンミラー

③多度津工場(車両の検査修繕工場)の近代化

老朽化した建物や機械の更新にあわせ、自動化、ロボット化、レイアウトの変更を行うことで作業効率の大幅な改善を目指す。

【施策の事例】自動化や集中監視装置の導入



(イメージ)

④検査・修繕の効率化

検査用機械の導入や遠隔での状態監視、目視から機器によるモニタリングへの転換等を進めるとともに、検査周期延伸や設備のコンパクト化を図る。

【施策の事例】老朽更新にあわせた設備のスリム化・メンテナンスフリー化



駅舎のコンパクト化

チケットレスアプリ「しこくスマートえきちゃん」の概要

- JR四国では、チケット購入時における非対面化、利便性向上を推し進める「JR四国Smart改革」に取り組んでいます。
- 本アプリの導入により、駅窓口で並ぶことなく“いつでも、どこでも”、“キャッシュレス”できっぷをお求めいただき、“きっぷ画面提示”で列車にご乗車いただけるようになります。
- ◎2023年春には普通乗車券をはじめ定期乗車券(通勤・通学用)等への券種拡大を計画しており、デジタル化・キャッシュレス化などお客様のニーズを踏まえつつ、本アプリを基盤とした更なる利便性の向上と、鉄道をより身近にご利用いただけるサービスを引き続き展開していきます。
- ⇒これにより、駅窓口や券売機の混雑緩和、無人駅からご乗車いただく際にも便利にご利用いただけるなど、サービスの向上や省力化を図って参ります。

【目的】

- ・きっぷの購入から乗車まで、鉄道サービス一連の利便性向上
- ・新たな価値観や行動変化に対応したデジタル化・キャッシュレス化の推進
- ・駅窓口を中心とした混雑緩和や省力化の実現
- ・ご利用状況の緻密な把握及びニーズに応じた臨機応変な商品販売環境の構築

【アプリ概要】

- 名称: 「しこくスマートえきちゃん」 略称 = 「スマえき」
- 提供開始: 2022年10月頃
- 動作環境: iOS 13.0以上、Android 8.0以上搭載のスマートフォン
- 決済方法: クレジットカード・デビットカード・プリペイドカード
※クレジットカード各社発行のものに限ります。



アプリアイコン

【利用対象エリア】

- ・JR四国全線、商品個別に設定した交通機関およびエリア
- ※共同経営対象区間: 牟岐線「阿南駅～浅川駅」間では徳島バス(株)が運行する高速バスも乗車可能

【これからの鉄道利用スタイル】



【きっぷ画面イメージ】



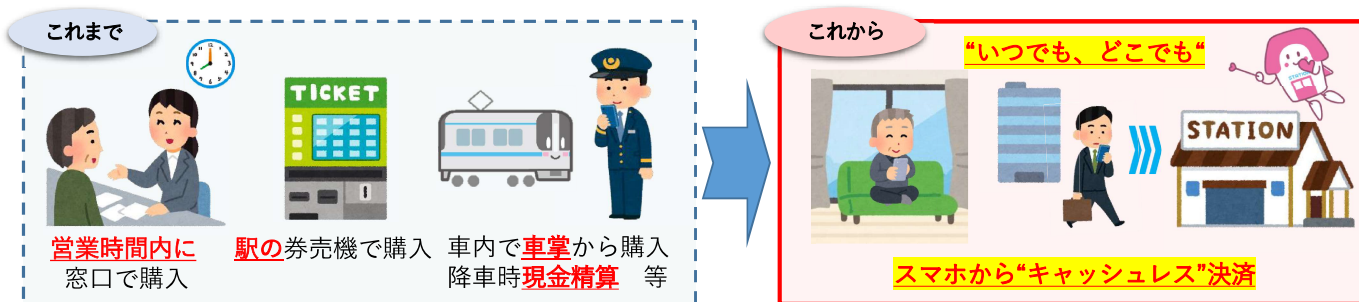
【取扱予定商品】 赤字は新商品

2022年10月頃 以降	2023年 春 以降 (券種のみ記載)
○特別企画乗車券	○乗車券(片道)
スマえき S きっぷ(片道)	○定期券(通勤・通学)
スマえき くるしお S きっぷ(片道)	○特急券(自由席)
スマえき トク割きっぷ(片道)	○特別企画乗車券(自由席)
内子・大洲町並散策1日バス などの四国内のフリーきっぷ	※10月頃 稼働商品含む ・片道タイプ ・往復タイプ ・フリータイプ ・回数券タイプ

※2022年8月10日 時点の内容であり、画面イメージ、取扱予定商品・名称等は今後変更となる可能性があります。
※IOS 商標は、米国 Cisco のライセンスに基づき使用されています。 ※Androidは Google LLC の商標です。

「しこくスマートえきちゃん」ご利用イメージ

【きっぷの購入編】 窓口に並ぶことなく、いつでもスマホからキャッシュレスで購入可能に



アプリでのきっぷの購入

1 きっぷの購入

アプリ専用商品含む、各種おとなきっぷをラインナップ予定

商品別に以下の選択可

- ◎利用区間（エリア）
- ◎利用日
- ◎利用人数 等



2 お支払い

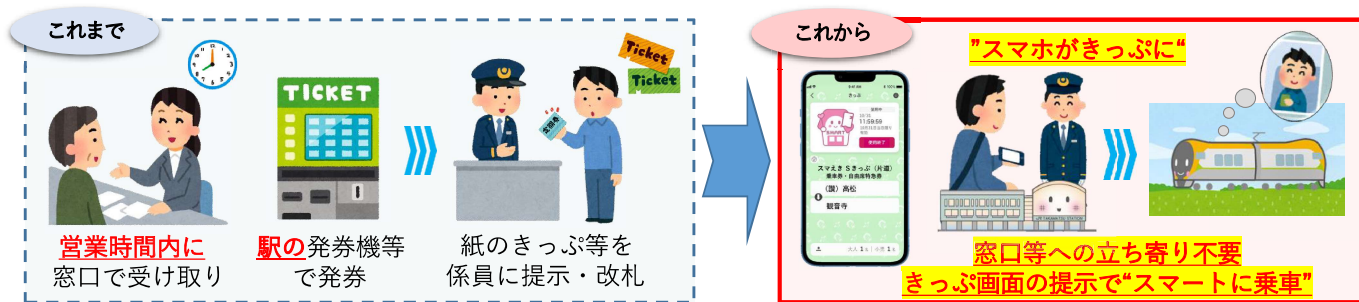
クレジットカード等を登録してその場でキャッシュレス決済

※以下のブランドが記載された
・クレジットカード
・デビットカード
・プリペイドカードが指定可能



「しこくスマートえきちゃん」ご利用イメージ

【きっぷの使用編】 スマホの画面提示で、そのまま列車に乗車（紙のきっぷは受け取り不要）



アプリでのきっぷの使用

1 きっぷの使用

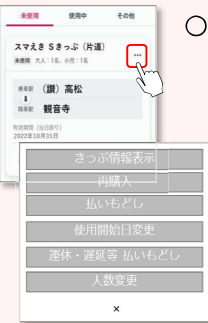
- 改札通過前に、「使用開始」をタップ
- 係員に、「使用中」画面を提示



【背景色が変化し、アニメーションが動作】

2 変更・払いもどしもアプリから

○使用開始前であれば「払いもどし」「使用開始日変更」「人数変更」がアプリから可能



※商品個別に変更・払いもどしに制約がある場合あり

5カ年推進計画(徳島県内の主な取組事例)

駅を中心としたまちづくり

◆新駅の設定

(1)牟岐線徳島～阿波富田駅間新駅設置の検討

- 実施主体：徳島県、徳島市、JR四国
- ・設置位置や需要予測に関する検討等
- ・7/11、7/13 利用者アンケート実施（徳島駅、阿波富田駅）

交通モード間の利便性向上・連携強化、交通結節機能の強化

◆運行体系、ダイヤ面での連携

(1)パターンダイヤの導入

- 高徳線徳島～板野駅間、鳴門線池谷～鳴門駅間導入
- 3/12ダイヤ改正
- 実施主体：JR四国、関係自治体
- 9～15時台普通列車の発車時刻を概ね統一
- ・コミバス等の二次交通との連携



パターンダイヤのPR（特急列車車内）

(2)鉄道と路線バスによる代替輸送の実施

- 代替輸送実施区間の拡大
- 土讃線阿波池田～大歩危駅間一四国交通
- 9/1～代替輸送契約運用開始



(3)鉄道と高速バスの連携

- 徳島県南部における鉄道とバスによる共同経営
- 3/18独占禁止法に基づく大臣認可
- 徳島バス「室戸・生見・阿南大阪線」の一般道区間の一部において、JR乗車券類での乗車を可能とする
- ・ことで、鉄道とバスの双方を共通運賃、通し運賃で利用できる（2022.4.1～運用開始）



◆営業面での連携

(1)異なる交通モードが利用できるきっぷ等の導入

- ぐるぐるなとデジタル周遊チケット実証実験
- 実施主体：KDDI、JR四国、徳島バス等
- ・JR四国（徳島～鳴門駅間）、徳島バス、徳島市交通局が2日間乗り放題となるデジタルフリーパス
- ・パススマホタッチ支払い
- ・実験期間10/15～1/31

○とくしまプレミアム交通券の販売

- 実施主体：徳島県、JR四国、交通事業者
- ・コロナウイルスの影響に伴う移動自粛により、利用者が大きく落ち込んでいる公共交通機関の需要喚起を応援する交通券の販売
- ・徳島県内の路線バス、高速バス、鉄道、タクシー、フェリー、航空、自動車運転代行で使用可
- ・1セット（500円券×10枚）を2,500円で販売
- ・使用期間 2022.3.11～2022.11.30（第4弾）



◆ハード整備

(1)新たな交通モードの導入

○DMV（デュアル・モード・ビークル）の運行開始

- ・12/25 線路と道路の両方を走行できるDMVが世界初の本格営業運行開始
- ・阿波海南駅～甲浦駅は鉄道モードで走行
- ・導入に合わせたプロモーション（記念入場券、DMVグッズの販売等）



(2)駅前広場整備

○鴨島駅周辺地区都市再生整備計画

- 鴨島駅ロータリー整備
- 実施主体：吉野川市、JR四国
- ・車両動線の変更、歩道の改良、イベント広場新設、タクシー乗降場移設
- ・2022.3 広場供用開始



鴨島駅ロータリー整備

(3)駅への駐輪場整備

- ・徳島市、徳島県による府中駅駐輪場整備（2022.2～）



府中駅駐輪場

◆その他

(1)シェアサイクルの整備（PiPPA）

- ・海陽町、東洋町エリアへのシェアサイクル整備
- ・7月～サービス開始（阿波海南駅等）
- ・11ポート、110円/30分、550円/6時間等

5カ年推進計画(徳島県内の主な取組事例)

駅や路線の活性化、利用環境の充実

◆駅環境整備

(1)トイレの整備等

- 自治体による公衆トイレの整備
- ・貞光駅（つるぎ町）2022.2 供用開始
- ・阿波半田駅（つるぎ町）2022.2 供用開始
- ・穴吹駅（美馬市）2022.2 供用開始
- ・阿波山川駅（吉野川市）2022.4 供用開始



貞光駅公衆トイレ（左）



阿波半田駅公衆トイレ（左）



穴吹駅公衆トイレ

観光振興への取組

◆観光列車等による観光振興

(1)「藍よしのがわトロッコ」の運行

- ・11/3 徳島駅出発時に阿波おどりのお見送り
- ・徳島県阿波おどり保存協会の踊り手が歓迎舞を披露



(2)「徳島ヴォルティス」臨時列車、増結

- ・徳島県公共交通利用回復支援事業補助金活用

◆イベント開催時等の連携

(1)四国デスティネーションキャンペーンとの連携

- ・「ぐるりめぐろう四国旅モバイルスタンプラリー」スポットの設定
- （阿波おどり会館、渦の道、歩危マート）
- ・10/1 オープニングセレモニー（徳島駅）
- ・10/9 「阿波とくしま観光の日」に観光ガイドブック等を配布
- ・11/30～12/3 「四国一周号」を運転



10/1 徳島駅

その他利用促進への取組

◆割引施策の導入

(1)通学定期所持者向け割引特急券：徳島線（穴吹～阿波池田）

- ・4/23～3/31 通学定期券を所持する学生を対象に「特急列車を安価な金額で利用できる回数券」を発売開始
- ・列車本数の少ないローカル線区での通学利便性を確保

◆公共交通の周知

(1)「川の時刻表」の作成

- 実施主体：徳島河川国道事務所、JR四国
- ・吉野川水系の河川と鉄道の交差箇所の列車通過時刻をまとめた時刻表を作成
- ・徳島河川国道事務所及びJR主要駅で配布



◆美化活動

(1)駅清掃活動

- ・7/6 南小松島駅前駐輪場合同整理
- ・9/7、1/13 南小松島駅でマナーアップ呼び掛け

(2)季節に合わせた飾りつけ

- ・11/25～12/26 徳島駅でシンビジウム展示
- ・12/1 阿南駅でクリスマスツリー設置
- ・12/16～1/15 阿波池田駅で地元高校生と共同で門松設置
- ・12/27 阿南駅で地元保育園児と共同で干支の引継ぎ式



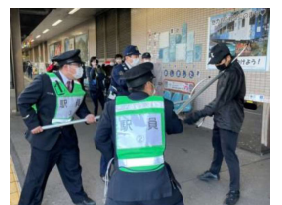
12/1 阿南駅

その他取組

◆安全性向上への協力

(1)異常時訓練への参加協力

- ・11/17 阿南駅・阿南警察署合同テロ対応訓練
- ・12/17 徳島駅・徳島運輸所・徳島中央警察署合同テロ対応訓練



12/17 徳島駅

◆新型コロナウイルスへの対応

(1)地域のワクチン接種への協力

- 7月～8月 徳島大学が実施する職域接種で、キャンパス間のシャトルバスの運行手配